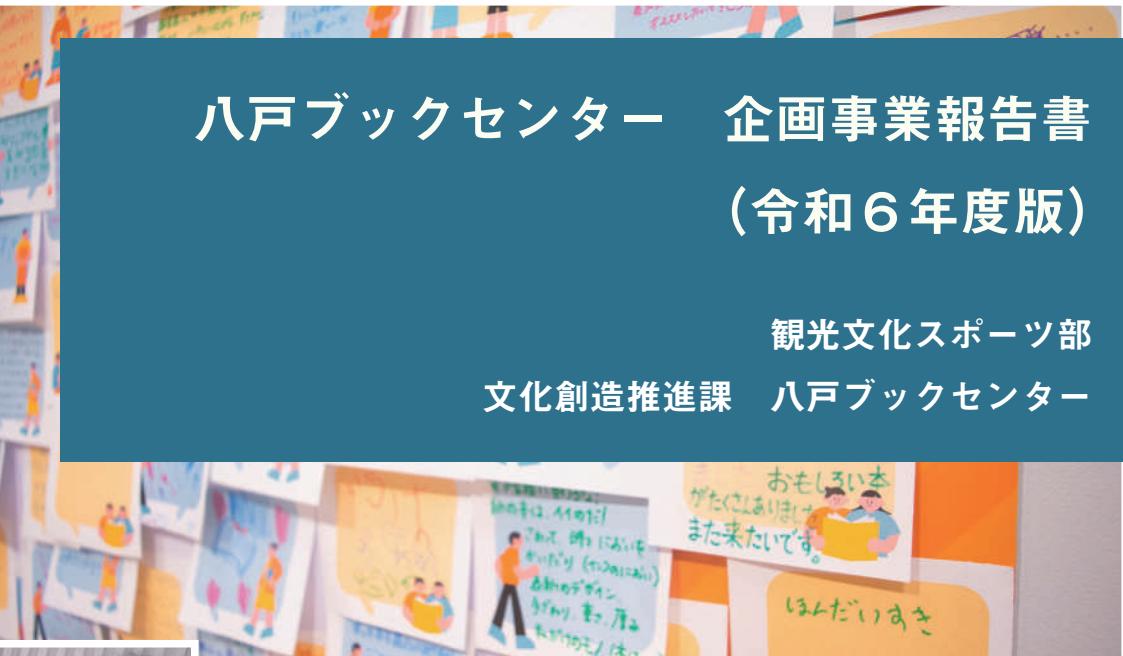


八戸ブックセンター 企画事業報告書 (令和6年度版)

観光文化スポーツ部
文化創造推進課 八戸ブックセンター



目次

八戸ブックセンターの基本方針	1
取り組みの全体像.....	2
セレクトブックストア	3
「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」	
「本でまちを盛り上げる」ための企画事業	
本のまち読書会.....	4
アカデミックトーク	5
執筆・出版ワークショップ	6
ギャラリー展	7
パワープッシュ作家.....	8
本のまち八戸ブックフェス	9
ブックサテライト増殖プロジェクト.....	10

さまざまな機関との連携

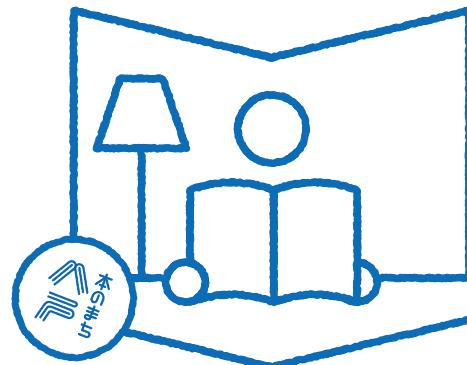
こどもたちに向けて	11
さまざまな機関との連携	12
八戸ブックセンター開設 8周年記念企画	13
「本のまち八戸」魅力創出イベント 読書へのとびら	14
施設の活用	15
参考データ① 令和6年度八戸ブックセンター決算額	16
参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移	17

八戸ブックセンターの基本方針

八戸ブックセンターは、全国初の、まったく新しい書店のかたちです。

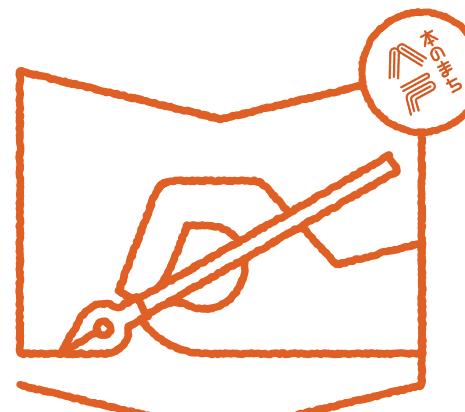
八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、

あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。



本を読む人をふやす

八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくると同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるイベントの開催などを行います。



本を書く人をふやす

当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。



本でまちを盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。

取り組みの全体像

八戸ブックセンター

書店の機能を持ち合わせた公共施設で、
本の販売という単一の機能に留まらない、
本を通した市民交流及び
まちづくりの拠点施設としての3つの機能



①セレクト・ブックストア機能

テーマ別の陳列などにより、本との偶然の出会いを創出するのと合わせて、本を「私有」して読む体験を促します。

②「本のまち八戸」の拠点機能

「本のまち八戸」を推進する拠点施設として、民間書店や公立・学校図書館、マイブック推進事業との連携やサポートを行います

③本に関する企画実施機能

八戸ブックセンターの企画運営方針（基本計画書）に沿って各種企画事業に取り組みます。

民間書店

- 地方の民間書店で取り扱いにくい本を八戸ブックセンターで揃えるなど、差別化・補完することで、面的に地域として市民が本に出会う環境を豊かにします。
- 八戸ブックセンターがハブとなり、民間書店（員）の連携・交流の機会をつくるほか、市外の個性的な書店経験者を招いた勉強会などの機会を通して、民間書店の魅力づくり強化のための支援を行います。
- マイブック推進事業（ブッククーポン）や、八戸ブックフェス、パワープッシュ作家などの取組を通し、民間書店での本の購入を促進します。

公立図書館

- ブックフェスなど企画での連携を図ります。
- 絶版本など購入ができない書籍への問合せに対応した情報提供を行います。

学校（図書館）

- 市内小中学校を訪問しての「出張ブックトーク」を行います。
- 市内小中学生を対象とした読書ワークショップの実施や職場体験への協力をします。
- 学校図書館司書研修会において、こどもの本についての情報提供をします。
- 高校生対象の読書ワークショップや文芸大会の連携を行います。
- 八学大、八工大、八戸高専学生が大学・学校図書館に配架する本の選書をするブックハンティングなどを実施します。

公共・民間施設

はっちや美術館を中心とした公共施設のほか、民間施設・団体と連携し取り組むことで、企画内容の充実や回遊促進のほか、市内各所で本に触れる機会を提供するなどの相乗効果を図ります。

セレクトブックストア

本を買って手にとるという体験
／市直営施設がなぜ本を販売するのか



偶然出会う本（未読ジャンルへの誘い）

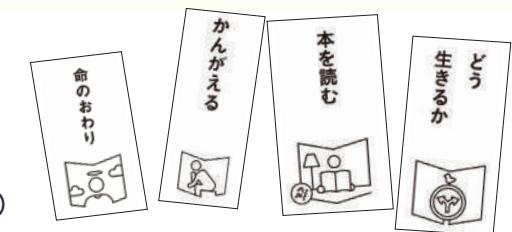
「出版物は全部置く」都心の大型書店とは異なり、様々なジャンルの入口となる本を「敢えてセレクトして並べる」ことでこれから出会う未読ジャンルへの選択肢を提案。

定期的にフェアも実施。テーマや一冊の本をフックに、そこから興味が広がるような選書・陳列をしている。

品揃えの補完（民間書店との棲み分け）

公共サービスとしての役割

書店は知的情報インフラであり、書店が無くなると、大型書店がある大都市と地方都市の文化的環境の格差がますます大きくなってしまうという課題を解消。図書館だけではなく、本を買って手に取る体験ができる書店など、知識を得るためにプロセスを公共サービスとして複数用意。



館内棚カテゴリの一例)





本のまち読書会



哲学研究者といっしょにマイケル・サンデルを読んで「正義」の話をしよう（令和6年8月31日、9月7日、9月21日）



トークイベントに
あわせた特設棚を設置



音楽学者からみた「宮沢賢治と音」（令和6年6月1日、6月15日）

多様なゲストで幅広い世代の方に

作家や編集者、書評家、出版社、教育機関などからゲストを招き、普段の読書とは違う目線からの話を聞くことができるトークイベントを通じて、さらに深く本を楽しむきっかけにつながっています。また、イベントをきっかけに、参加者による新たなコミュニティがつくられるなど、ブックセンターが市民活動の場にもなっています。

令和6年度は、<連続講座>と銘打ち、「哲学」と「音楽学」の分野について、岩手大学の先生をお招きし講座を実施しました。特に、哲学の講座では、参加者に事前にテキスト本の購入とレポートの作成をお願いするスタイルで進め、講座当日はそれに基づいた討議の場としました。なお、本講座は、当センターとして初めて参加料を徴収したイベントとなっています。満席となった参加者からは大変好評なイベントになりました。



アカデミックトーク



令和6年度実施状況

顔の心理学～ヒトが顔を記憶するメカニズム
(ゲスト：八戸学院大学健康医療学部教授 遠藤光男氏)
作品集『COHO COME HOME』刊行記念 岩根愛×町口覚トークイベント
「次の始まりの始まり～KIPUKA」から「The Opening」～～
(ゲスト：写真家 岩根愛氏、
造本家／グラフィックデザイナー／パブリッシャー 町口覚氏)
山上新平展「KANON」開催記念トークイベント
「あなたは人生の前に何を置きますか？人生の前に置いた写真と写真集」
(ゲスト：写真家 山上新平氏、
造本家／グラフィックデザイナー／パブリッシャー 町口覚氏)
公共哲学者 山脇直司さんとの哲学対話 2024「分断と共生」
(ゲスト：東京大学名誉教授・八戸特派大使 山脇直司氏)
工学×アート×脳～工学知識と脳機能が繋り広げるアートの世界～
(ゲスト：八戸工業大学 学長 坂本禎智氏)
寺山修司記念館企画展『青女たち・女神たち 寺山修司の女性論』解説
(ゲスト：三沢市寺山修司記念館学芸員 広瀬有紀氏)
誤読の女王・ヴィヴィアン佐藤がいざなう読書の世界
(ドラッグクイーン・非建築家 ヴィヴィアン佐藤氏)

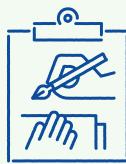


知的好奇心を刺激する

教育機関や文化施設などから講師を招き、本を軸にした、各分野からの専門的なトークイベントは、本に対する興味を湧き立たせます。

また、トークに合わせて、各講師に選書していただいた「ひと棚」を展開し、さらに理解を深められるような仕掛けづくりをしています。





執筆・出版ワークショップ



ZINE 展示発表会（令和 6 年 5 月 18 日、八戸市美術館）



ZINE とは・・・個人や少人数で発行する自主的な印刷物や冊子のこと。



HACHINOHE ZINE CLUB ブース（令和 6 年 9 月 29 日、本のまち八戸ブックフェス・マチニワ会場）

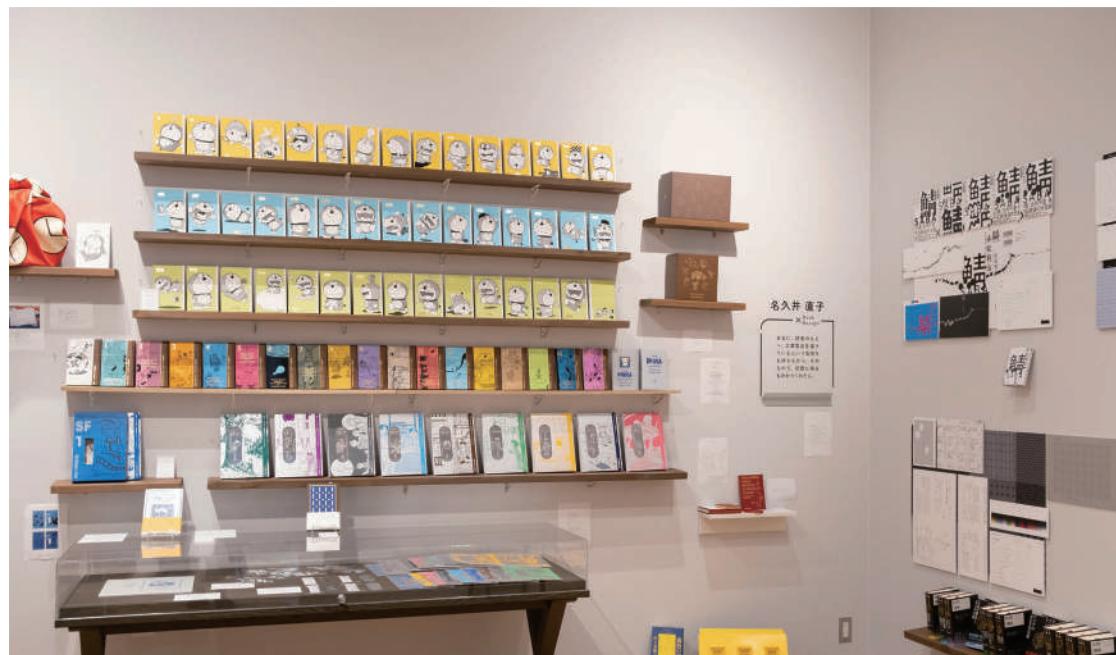
「つくる楽しさ」を体験・共有

文章を書く人、絵や漫画を描く人、写真を撮る人など、さまざまなジャンルの人が定期的に集まり ZINE を制作する「HACHINOHE ZINE CLUB」。

令和 4 年度から八戸市美術館と協働し、さまざまなワークショップやミーティングを行いながら、表現活動を行う人同士の交流の場を提供。だれもが自分らしい表現ができるようにサポートを続けています。

昨年度は 5 月に八戸市美術館で開催した「ZINE 展示発表会」、9 月の「本のまち八戸ブックフェス」への出店などを行いました。

ギャラリー展



「ブックデザイナーの仕様書展 2024」
(令和6年9月21日(土)~11月24日(日))



“本”を切り口にしたさまざまな展示

開館以降、本との出会いや、知的好奇心を刺激するような企画により、来館者の方に楽しんでもらっています。

3回目となる「ブックデザイナーの仕様書展」では、3名のブックデザイナーがデザインした本を仕様書とともに紹介。重さ、カバーなどの質感や手触りなど、ブックデザインという視点から本に興味を持ってもらう入り口となる展示としました。



八戸市美術館とのコラボレーション

令和6年7月6日から八戸市美術館で開催した「tupera tupera のかおてん」開催にあわせ、ブックセンターでは、本展示の裏側を紹介するギャラリー展を開催。美術館とブックセンターを回遊してもらえるような取り組みとなりました。



「かおてん」の裏側展 (令和6年7月6日(土)~年9月1日(日))

自分だけの「かお」をつくることができるワークショップスペースを設置。



パワープッシュ作家



能町みね子×高橋弘希 読めない2人のスペシャルトークイベント&サイン会（令和7年2月24日、会場：はっち）

注目の作家さんを地元新聞社とともにプッシュ！

三沢市在住の作家・高瀬乃一さんの『無間の鐘』（令和6年3月発売／講談社）、『春のとなり』（令和6年5月発売／角川春樹事務所）が連続で刊行されたのを記念し、リレーエッセー「ふみづくえ」の連載などで高瀬さんと縁の深いデーリー東北新聞社さんと八戸ブックセンターの主催で、高瀬さんに執筆秘話などをお伺いするトークイベントを開催しました。

高瀬さんが第一席を獲得した「新春短編小説」の作品をはじめ、過去の高瀬さんの関連記事を会場内に掲示したほか、全10回あった「ふみづくえ」のうち3回分のコピーを来場者の方にお配りし、デーリー東北新聞社の協力により実現できた特別な会となりました。



八戸市や近隣市町村にゆかりのある作家を「パワーパッシュ作家」、同じくゆかりのある作品を「パワーパッシュ作品」として、館内でのフェアや、トークイベントなどを開催しています！令和6年度は、地元新聞社の協力のもと、広範囲にイベントを周知し、開催後の記事掲載によって、イベント内容を知つていただくことができました。

2つの新聞連載がクロスオーバー！

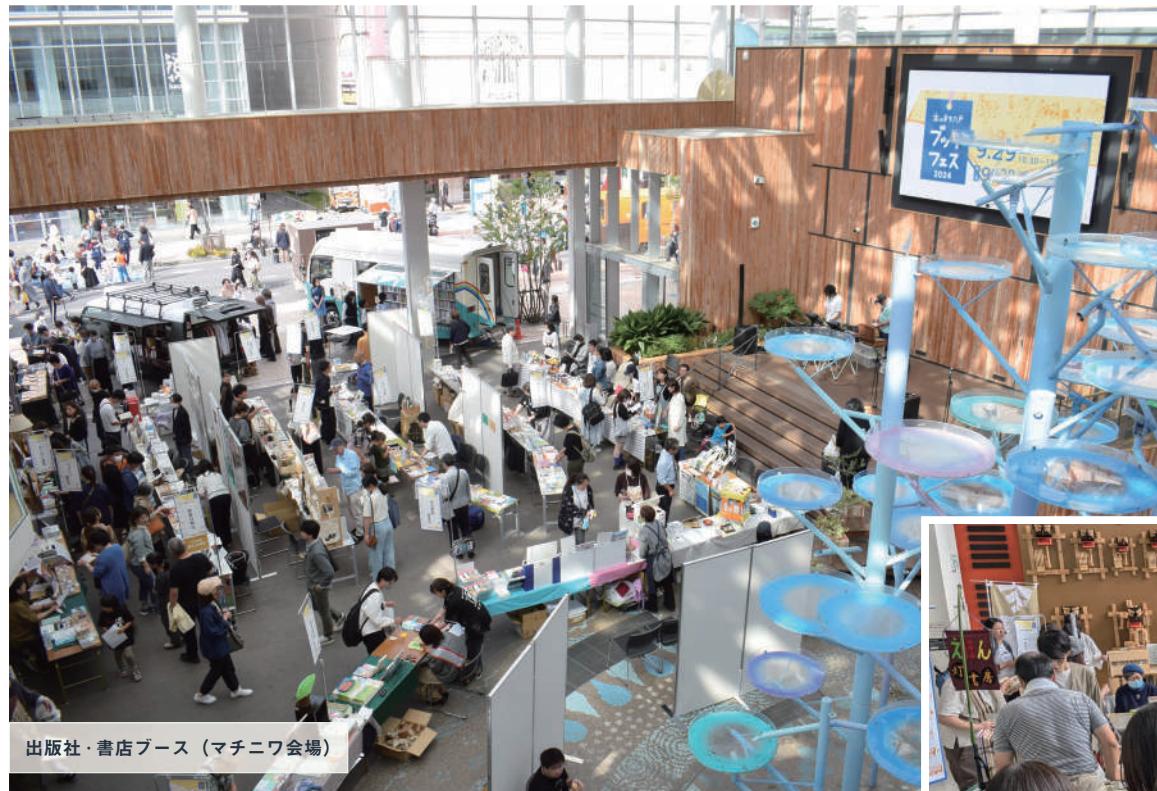
青森と東京で二拠点生活をしているエッセイスト・能町みね子さんの著書『ショッピン・イン・アオモリ』（令和6年10月発売／東奥日報社）の刊行を記念し、主催・東奥日報社、共催・八戸ブックセンターとして開催しました。

デーリー東北新聞社から出版された『高橋弘希の徒然日記』が、東奥日報紙での『ショッピン・イン・アオモリ』連載のきっかけだったことから、十和田市生まれの小説家・高橋弘希さんをお招きし、能町さんとの初顔合わせ対談を行いました。



デーリー東北新聞社×八戸ブックセンター
三沢市在住作家・高瀬乃一さん スペシャルトークイベント&サイン会
(令和6年7月20日、会場：デーリー東北ホール)

本のまち八戸ブックフェス



出版社・書店ブース（マチニワ会場）



さがしごとイベント



移動図書館車



一箱古本市・古書店ブース (はっち会場)



市民が本に触れる機会をつくる

年に1度、中心街（はっち、マチニワ、ブックセンター）で開催する「本のまち八戸ブックフェス」。

前回までに引き続き、市民参加型の一箱古本市・古書店ブースや出版社ブース、書店ブースなどを開設したほか、地元ゆかりの作家さんなどをお招きしたトークイベントを実施しました。

世代を問わず楽しめるイベントと、本好きの方同士の交流が好評で、継続開催を希望する声をいただいているです。

なお、令和6年度は、初めての2日間開催となりました。

市内各地域のステーションを巡回する移動図書館車は、展示と貸出を行いました。



ブックサテライト増殖プロジェクト



市内全域に拡がる本棚スポット

市内の小売店や飲食店、公共施設などに呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本棚を設置。本棚にはそれぞれの店舗に合わせた選書をしており、ちょっとした時間を過ごすところに、その場所にあった本棚がある「まち」を目指しています。

令和6年度は、コワーキング機能とコミュニティ機能を備えたフレキシブルスペース「風笑堂」やインテリアSHOP「ガラージュM」、青森みちのく銀行八戸市庁支店に設置していただきました。



「和の設えのなかで」をテーマに、古民家をリノベーションした風笑堂さんで読みたい本を選びました。美しい花の写真を楽しめる本や、民芸に関する本などがあります。



「生活の中に彩りを与えてくれる本」をテーマに、香りが好きな人のための本や、素敵な装丁の本など、インテリアと合わせて楽しめる本を選びました。

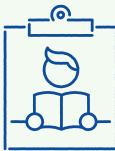


「八戸の魅力、再発見！」をテーマに、いまとむかしの八戸の姿を比べられる写真集や、主に八戸を調査対象にした地域研究をまとめた本などを選んでいます。

ブックサテライト参加施設

青い森信用金庫全店（15店）
ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店
スターパックスコーヒー（八戸田向店、八戸城下店）
八戸市水産科学館マリエント

八戸市博物館
八戸市立市民病院 周産期センター
八戸市美術館
風笑堂
ガラージュM
青森みちのく銀行八戸市庁支店



こどもたちに向けて



【パワーブッシュ】絵本作家まつばらのりこさん日本デビュー絵本出版記念
「ぼっちとぼっちをつくろう！ワークショップ&サイン会」
(令和6年8月10日)



「トークイベント・私がイギリスで絵本
作家になるまで」(令和6年8月10日)

保護者にむけたワークショップ

八戸出身の絵本作家であるまつばらのりこさんをお招きして、ワークショップとトークイベントを開催。こどもたちが楽しめるイベントはもちろん、保護者の方々が一緒にになって楽しめたり、子育てについて考えたり意見を交換し合う場としての企画も開催していきます。

マイブック推進事業での連携

市内の全小学生へ2000円分のマイブッククーポンを配付し、書店で本を買う体験を勧めています。ブックセンターでは、クーポンと共に配付する「おすすめブックリスト」を作成をしています。



ブックリスト「本はともだち」



こどもの本のおはなし会

令和6年8月より、八戸ブックセンターでのおはなし会が開始。学校司書を中心に結成した「ヨムッコ」のみなさんと一緒に、「新しく発売した絵本」をご紹介しています。



おはなし会グループ
ヨムッコのみなさん

さまざまな機関との連携

全国の図書館、教育機関などとの連携



学生が本と出会う場を創出する

市内の高専生、大学生によるブックハンティング（学校・大学図書館に配架する本を自ら選書）を実施しています。

ブックハンティングでは、学生とブックセンターのスタッフで「なぜ、その本を選んだのか」など、本についてのディスカッションも行い、本に対する知的好奇心を深めることにつなげています。

八戸学院大学（6名） 八戸工業大学（4名） 八戸高等（12名）

全国の図書館、教育機関等との連携

数多くの視察を受け入れているほか、全国各地からの依頼により「本のまち八戸」の取組を紹介することにより、八戸のPRにもつなげています。

【視察受入件数】

59件、412名

【事例発表】

- ・新任図書館長研修（文部科学省、筑波大学）
- ・日本子ども学会学術集会
- ・図書館職員・図書館協議会委員合同研修会（岩手県図書館協会、岩手県教育委員会）
- ・まちづくりシンポジウム 生活文化創造都市フォーラム「八戸地域会議」
(主催:(一財)日本ファッショング協会)

など

八戸ブックセンター開設8周年記念企画

記念トークイベント

『猫と考える動物のいのち—命に優劣なんてあるの？』(筑摩書房)刊行記念を兼ね、八戸出身の小説家の木村友祐さん、並びに、木村友祐さんと親交のある漫画家のですむらひろしさんをお招きして、「猫」をテーマに、愛猫家お二人による対談形式のトークイベントを開催しました。



ギャラリー展 「本のまち こんなまち」

1874年（明治7年）、旧八戸藩士が共同で開いた八戸書籍縦覧所の流れを組む八戸市立図書館の開館150周年を記念し、「本のまち八戸」に関する歴史や歩みを振り返る「本のまち こんなまち」を開催しました。来場されたみなさんの本にまつわる思い出や、本を読むことへの想いを寄せていただく「本のまちのこれから～みんなでつくる本のまち～」には120を超えるメッセージが寄せられ、幅広い世代のみなさんの「本」や「ブックセンター」に対する想いを知ることができました。



「本のまち八戸」魅力創出イベント 読書へのとびら

「本のまち八戸」をより一層盛り上げ、多くの人に本に興味を持っていただけるよう、八戸市読書団体連合会と八戸市立図書館の協働で、本のまち八戸魅力創出イベント「読書へのとびら」を開催し、ジャーナリストの池上彰さんに「本のちから」と題してご講演いただきました。

「どれだけ本屋があり、読書をする人がいるかで発展度合いが見える。本好きがいるまちは、必ず発展する」とお話しされたのがとても印象的で、ご来場いただいた約1200人のお客様には、読書の重要性や楽しさ、書店の魅力に改めて気づいていただけたものと思います。



施設の活用

読書会ルーム



市内読書団体への貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業に活用しています。一般的な読書会だけではなく、句会・短歌会や紹介型の読書会など、多様な使い方があり、利用されている方からは、落ち着いた雰囲気の中、館内の本を読むこともでき、気軽に利用できるとのご意見をいただいています。

	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
令和2年度	50件	4.2件	32件	2.7件
令和3年度	52件	5.2件	14件	1.4件
令和4年度	87件	7.3件	16件	1.3件
令和5年度	152件	12.7件	23件	1.9件
令和6年度	171件	14.3件	47件	3.9件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

カンヅメース



本などを執筆したい人向けに貸出しており、利用するには、活動内容などを教えていただき「市民作家登録」をしていただいている。趣味で執筆している方のほか、小説やエッセイを執筆するプロの作家、ライターの方など、幅広い利用があり、利用されている方からは、執筆に集中できるとのご意見をいただいている。

	市民作家登録者		利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
令和2年度	24名	259名	278件	23.2件
令和3年度	15名	274名	190件	19.0件
令和4年度	28名	302名	307件	25.6件
令和5年度	17名	319名	309件	25.8件
令和6年度	29名	348名	290件	24.2件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

参考データ① 令和6年度八戸ブックセンター決算額

【歳 入】

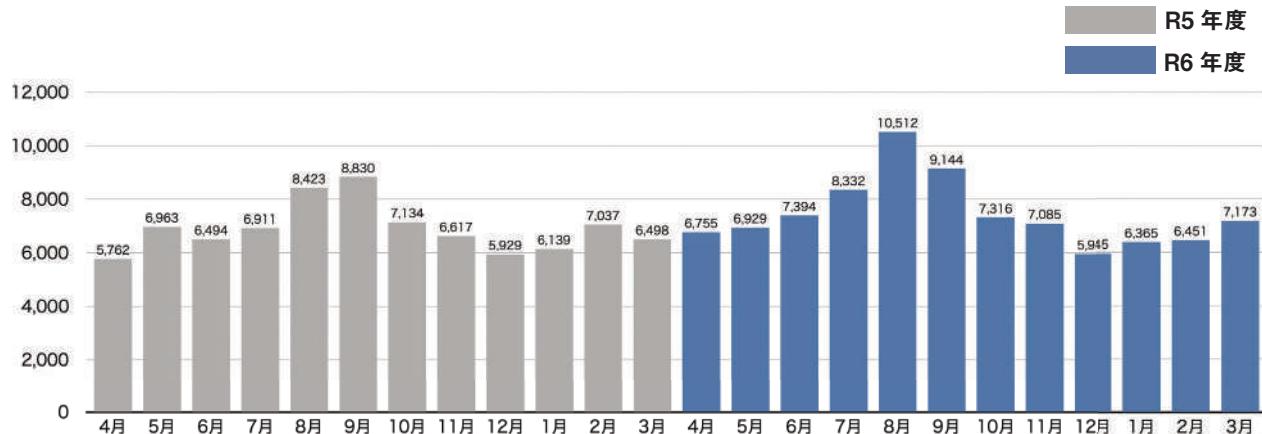
科 目		金 額	単位：千円
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分）	497
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	23,071
		電気等使用料	84
	諸収入	書籍売上収入	14,531
		その他雑入（講師謝礼等）	1,363
		小 計	39,546
		特定財源（協働のまちづくり推進基金）	2,350
一般財源		64,993	
歳入合計		106,889	

【歳 出】

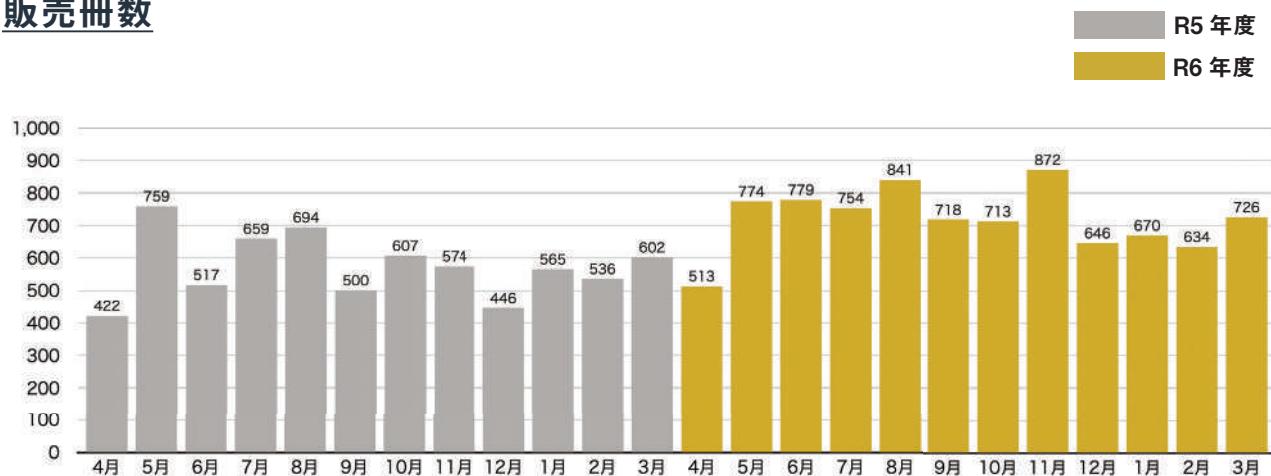
A.選書、企画事業の実施に係るもの		単位：千円
科 目		金 額
人件費	職員3名、会計年度任用職員4名	47,034
報償費	自主事業謝礼	2,546
旅費	自主事業等旅費	605
需用費	食糧費	47
役務費	通信運搬費	825
委託料	企画事業業務等	5,399
合計		56,456
B.本の販売等に係るもの		
科 目		金 額
役務費	手数料（クレジットカード決済手数料）	354
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	27,071
	（うち書籍仕入分）	11,407
	（うち販売返品業務等分）	15,664
合計		27,425
C.建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの		
科 目		金 額
需用費	消耗品費	659
	印刷製本費	220
	光熱水費	1,299
	修繕料	377
	小 計	2,555
役務費	火災保険料等	83
	小 計	83
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,402
	その他（ホームページ運用保守業務等）	693
	小 計	3,095
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,629
	その他（複写機使用料等）	1,253
	小 計	16,882
備品購入費	庁用備品購入費	388
	小 計	388
負担金補助及び交付金	諸会議等出席負担金	5
	小 計	5
合計		23,008
歳出合計A+B+C		106,889

参考データ② 来館者数、販売冊数、販売額の推移

来館者数



販売冊数



来館者数

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人
令和4年度	77,205人	6,434人	251人
令和5年度	82,737人	6,895人	270人
令和6年度	89,401人	7,450人	289人

※令和2年4月29日～5月10日、令和4年1月25日～3月22日の期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により休館

販売冊数

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊
令和4年度	7,017冊	585冊	23冊
令和5年度	6,881冊	573冊	22冊
令和6年度	8,640冊	720冊	28冊

販売金額（書籍のみ）

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	10,694,146円	891,179円	35,886円
令和3年度	9,672,553円	967,255円	37,202円
令和4年度	11,078,017円	923,168円	35,968円
令和5年度	10,861,054円	905,088円	35,378円
令和6年度	13,515,575円	1,126,298円	43,740円

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出